

2017年度 年次報告書

2017年度事業報告

[期間 2017年4月1日~2018年3月31日]

2018年度事業計画

[期間 2018年4月1日~2019年3月31日]

代表理事・理事・監事・評議員の選任

[期間 2018年4月1日~2019年3月31日]

定款の変更

2017年度決算・2018年度予算



特定非営利活動法人
子どもアミーゴ西東京

■議案 1 2017 年度 事業報告

2017 年度は、第 3 期中期ビジョンの 2 年目として、理念の実現に向けて各事業を運営しながら、「子どもを中心とした支え合いの地域づくり、まちづくり事業」と「組織の基盤強化」に取り組みました。

施設事業（学童クラブ運営事業、児童センター運営事業）では、子どもや利用者の安全安心を前提として、それぞれの施設で工夫しながら様々な取り組みを行いました。子どもたちの居場所として日々子どもたちの笑顔があふれ、仲間同士で思いっきり遊び、また自分たちでいろいろな企画運営に取り組みました。行事では多くの保護者や地域の方々も参加し、子どもを中心としてつながりと支え合いが広がりました。

「子どもを中心とした支え合いの地域づくり、まちづくり事業」では、今までの連携を活かしながら地域と協働を進め、地域が抱える様々な課題に対して私たちができる取り組みを一步一步進めてきました。

組織運営は活動を支える大切な部分です。今年度は昨年度の反省を踏まえ取り組んできました。今年度に来れなかったことや不十分であったことを振り返り、次年度に繋げていきたいと考えています。

◇子どもを中心とした支え合いの地域づくり、まちづくり事業

【事業の内容】

1. だがしや楽校・いわき市児童クラブ交流事業

2011 年の東日本大震災を契機として、毎年福島県のいわき市児童クラブとの支援事業を行ってきました。その中で、「キッズスマイル FP いわき」（以下、いわき）とアミーゴとの交流は一方向的な「支援」という形から、文化交流を核とした互いの学童保育の充実を目指すものへと変わってきました。

2017 年度は、今まで交流事業として開催してきた 8 月のイベントは行わず、アミーゴ主催のだがしや楽校での出店を通して一本化することになりました。それにより、実行委員会の体制も「だがしや楽校」と「いわき市児童クラブ交流」の委員が合体した形で行い、だがしや楽校の準備進捗を「いわき」に伝えながら計画を進めてきました。

実行委員会で、いわきとアミーゴの子ども・大人で共同制作をしたいという提案が出され、大きな一枚のフラッグを作成することになりました（写真参照）。2×2.5m の布に木を描き、その中に花や葉を模した子どもたちの手形を押ししていき大きな一つの作品とするというものです。はじめにアミーゴの学童クラブから児童センターまで全施設に回して、それをいわきに送りました。だがしや楽校当日には、完成したフラッグを人通りの多い目立つところに飾りました。



だがしや楽校は 9 月 10 日（日）、向台公園（西東京市）において、「みんなで手をつなごう ～なか

まが集まる豊かな森へ～」をテーマに掲げ開催しました。

900人以上の来場者を迎え、地域の方々や学童クラブの保護者、会員・評議員のボランティアの方々に支えられながら、大盛況となりました。一部、出店を予定していた団体が諸事情により参加できなくなるといったこともありましたが、他団体との交流の有効な場として、だがしや楽校を続けていきたいと思えます。

2. アミーゴ自然塾

アミーゴ自然塾は、遊びながら自然の大切さを学ぶとともに、学童クラブを巣立っていった子ども達が、卒所後も仲間たちとのつながりを持ち続けられることを大切に考えて行っている事業です。8月4日から6日に、東京都西多摩郡日の出町、日の出山の山麓に位置し、NPO法人花咲き村が運営する「古民家滝本」周辺で今年度も開催しました。小学5、6年生合わせて28名、中学生9名の総勢36名の参加者が集まり、それに加えて今年度も学童OBOGの高校生4名がスタッフとして参加しました。

事前に開催された子ども会議の中で、キャンプの中でどんなことをやりたいか、何を作って食べたいか、などをみんなで話し合いをして決めました。学童保育の重要な柱の一つである、主体性を持って自らやりたいことを選択していくこと、そして一緒にそれを行う仲間思いを寄せることを、自然の中での体験を通して実現していく機会になったと思えます。

近くの沢で思い切り水を掛けあう子、急な沢を登り滝に打たれる子、魚釣りに行き見事ヤマメを釣り上げる子、同じ趣味を持つ仲間どうし昆虫取りに興じる子など、それぞれのやりたいことを、思い思いのペースで楽しんでいました。恒例のドラム缶風呂が、今年から二つとなり、沢遊びで冷えた身体を温めていました。

これまで会場となっていた「古民家滝本」の管理体制が変更になることとなり、2018年度からの実施形態を改めて検討する必要があります。本事業におけるこれまでの成果を踏まえ、より良い形態に向かって舵を切れるよう、検討を重ねたいと思えます。

3. 他地域の団体との協働

1) いわき市四倉児童クラブ交流・支援事業

(1. だがしや楽校・いわき市児童クラブ交流事業 をご参照ください)

2) 高学年合宿

学童クラブの高学年行事は「自分たちが学童の生活で大切にしてきたことを改めて見直す機会を作る」という目的を掲げて実施しています。自然の中で仲間たちと協力しながらの様々な体験、また当日に至るまでの色々な準備の場を通して、家族の一員としての役割と家族からの支え、また同様に学童の一員としての役割と仲間たちからの支えに、改めて気持ちを向けることができる時間がたくさん用意されている行事です。これらの行事を経て、4年生達がより強くつながり合い、大人になってからも心に残り、生きていくうえでの力となる機会になることを願い、NPO法人花咲き村との協働で2017年度も実施しました。

【実施日及び開催地】

ひばりが丘第二学童クラブ 9月30日～10月1日 日の出町花咲き村運営山里交流施設「滝本」
北原学童クラブ 10月8日～9日 同上
ひばりが丘第一学童クラブ 10月14日～15日 同上
向台学童クラブ 10月21日～22日 同上
谷戸学童クラブ 11月11日～12日 同上
向台第二学童クラブ 11月18日～19日 同上

4. 西東京市を中心とした地域 NPO や関連団体との協働

ひばりが丘児童センターにおいて、子育て支援事業として NPO 法人ちろりん村との共催事業（「ミトンの会」）を毎月継続する他、多くの他団体との協働事業を実施しました。また、同法人とは、認定 NPO 法人日本 NPO センター主催、財団法人児童健全育成推進財団共催による児童館と NPO の協働に対する助成事業「NPO どんどこプロジェクト」においても、協働を行いました。乳幼児、小中学生、地域の高齢者という幅広い世代による異世代交流事業を行いました。

10月9日に西東京市と実行委員会の共催事業としてひばりが丘児童センターで開催された「第7回こそだてフェスタ@西東京」の運営に協力しました。また、1月20日にアスタセンターコートで開催された第9回 NPO 市民フェスティバルに参加して、様々な地域の子育て支援団体、地域 NPO と交流しました。

西東京市市民協働推進センターゆめこらぼの運営委員を統括ブロック長が務め、事業の企画運営にかかりました。FM 西東京の番組審議委員を事務局長が昨年度に続いて務め、地域コミュニティにおける情報発信について情報交換を行いました。西東京市社会福祉協議会の評議員を事務局長が務め、西東京市の地域福祉の現状について情報収集や提言を行いました。また、西東京市西部地区地域協力ネットワーク（にしにし.net）のメンバーとして事務局長が参加しました。ひばりが丘団地自治会、谷戸育成会、中原小おやじの会等のイベントに積極的に参加しました。西東京市学童クラブ連絡協議会主催の学童子どもまつりに参加し、レクリエーションを担当しました。

◇学童クラブ運営事業

国が定める放課後児童クラブ運営指針、団体の学童クラブ保育指針が示す学童保育作りへの取り組みについては、日々の保育実践、外部及び自主の研修等を通して、上半期、下半期とも精力的に行われました。下半期においては、当団体の中核的な研修である保育実践検討研修が行われ、引き続き指導員としての資質向上に努めました。今年度においては、ブロック会議、施設長会議、運営会議など各会議の役割、権限を明確にし、効率的な業務の遂行を図ることに取り組みました。まだまだ整理が必要な部分も残りますが、考え方の方向性を定めるという意味においては成果がみられたと考えます。また運営会議のスーパーバイザーを設置し、事業運営、職員研修など多岐に渡り、スーパーバイズ、アドバイスを受けました。

【活動の内容】

1. 学童クラブ運営の方向性の構築

当団体の学童保育における目指すべき方向性を共通認識し、ゴールを共有する取り組みについては、各指導員の意識も高く、年間を通して成果を出せたと考えます。ブロック間での意識の共有もなされ、現場で起こる様々な悩みや葛藤に、全体で解決に向かって考え合える素地が出来上がってきました。

これまでは特定の地域で顕著に見られてきた大規模学童化が、今年度は実質的に各ブロックともに見られるようになりました。国の定める運営指針では定員 40 名が望ましいとされる学童クラブで、複数フロアの育成室分割による 110 名定員という児童数を抱える施設、50 名定員のところ 4 割以上の定員超過の中での運営を余儀なくされる施設もありました。そのような大規模化が進む中、これまで団体が培ってきた、育成室で展開される自発的な児童の遊びに関して、行政より指導が入る局面もありました。学童保育における遊びの重要性と安全配慮について、これまでに以上に丁寧な発信と、行政や保護者の皆様との相互理解への努力が大切と考えます。また、西東京市学童クラブ連絡協議会などの協力機関を通し、学童での遊びの大切さ、子どもたちの遊ぶ権利を守っていかねばいけないことなどへの理解と共感を広げていく努力も必要だと考えます。

全般的に保育職員の雇用が難しい現況の中、退職職員の補充が順調にいかず、現場での負担が増す場面も多々ありました。次年度も学童クラブの更なる大規模化が予想される中、これまで以上に計画的な採用活動と、職員の定着を図る努力が必要と考えます。

2. 保育内容の充実・向上に向けた人材育成

上半期においては、5 月に 2016 年度の実践記録検討研修会が最終的に完結しました。また全国の学童保育において指導的立場を果たしている方を講師として迎えた研修、さらにそのフォローアップのための情報交換研修を行いました。これらの研修により、保育実践力向上、中核人材の育成に取り組みました。下半期では、全国学童保育研究集会へ 4 名の職員を派遣したほか、三多摩学童フォーラム、全国学童保育指導員学校などの外部研修への参加が業務として保障され、それぞれ約 20 名の指導員が参加しました。また当団体の中核的な自主研修である実践記録検討研修が行われました。子ども一人ひとりの様子を記録する「個人記録」など、保育に必要とされる様々な記録をもとに、一人の子どもに対する指導員としての関わりを振り返って「実践記録」を書きあげ、指導員間でその実践内容を検討します。その検討を日々の実践に活用していくことで、指導員としての資質向上を図りました。

国が示す放課後児童クラブ運営指針と、当団体の学童クラブ保育指針の二つの指針の実現と、職員各々の自己実現が等しく達成できるようにするために施設長を対象とした目標共有シートの活用をスタートさせました。指導員個人に対しては、その運用成果を踏まえて具体化に取り組んでいきます。

3. 保護者・地域との連携強化

日々の子どもたちの学童クラブでの様子を家庭に伝えることは、国の放課後児童クラブ運営指針、団体の学童クラブ保育指針においても、学童保育の中の大きな柱として位置付けられています。おたよりでは、子どもたちの生き生きとした場面を具体的に切り取ることにより、我が子が過ごす生活の場がどのような様子なのかを家庭に伝え、連絡帳ではより個別具体的な応答を行い、保護者の方と一体感を持って学童保育を共に築いていけるよう各施設とも取り組みました。夏休み中には日刊おたよりの発行も行い、長い一日保育の様子を知ってもらえるよう、より丁寧な発信に努めました。また、保護者会、茶話会、個人面談や共催行事の開催など、直接保護者の方々と話す機会を持ち、学童保育への理解を深めてもらえるよう努めました。近隣小学校との情報交換会の開催、様々な形で活動されている地域の方々との協力などにより、地域との連携を図りました。だがしや楽校や卒所を祝う会に近隣小学校の校長が来場してくれるなどの成果も見られました。また、2月には児童・民生委員、主任児童委員の方々と学童クラブの懇談会も実施されました。

保護者や地域の方々とのより良い関係作りのために、丁寧な情報共有や情報発信、学童保育の基本的な役割を不備なく行うなど、更なる努力を行って参ります。

また、今年度より団体の広報誌である「アミーゴ通信」の編集に、学童現場の指導員が加わり、アミーゴの学童クラブの様子を、よりリアルに地域の方々にお知らせできるようになりました。

4. 行政その他の機関との協働関係の構築

委託事業の中で、担当課、所管児童館との協力、連携を図りました。所管児童館との定例の会議などを通し、学童運営や双方の行事等についてより密度の濃い情報共有、連携を取れるようになった施設もあります。全般的に所管児童館との連携関係は良好と捉えています。子どもたちや、各家庭への充実した支援をするには、担当課をはじめとする行政機関と、「協働」の考えを積み上げていくことが大切だと考えます。10月に西東京市学童連絡協議会との懇談会、3月に西東京市指導員ユニオンとの懇談会を開催し、意見交換、情報交換を行いました。

当団体は、西東京市内に住む多くの働く親の人達の願いから誕生しました。こうした方々の切実な思いを創設の理念として、地域の子育てに関わる様々な施設（学校、保育所、幼稚園、児童館など）や、地域の組織活動（子ども会、自治会・町内会、青少年育成会、子育てサークル、西東京市指導員ユニオンなど）、更に広域の組織として三多摩学童クラブ連絡協議会、全国学童クラブ連絡協議会などの諸団体との関わりを大切にしてきました。その上で今後も行政と手を取り合っ、地域の児童行政を共に考え、子どもたちが安全に過ごせるまちづくりに繋げていきたいと考えます。

5. 自主事業の見直し

保護者ニーズに寄り添う形で創立当初より継続している延長保育や外注弁当の事業です。2017年度においては、利用状況の検証・分析には至りませんでした。他事業者との情報交換なども行いながら、自主事業の形態を検討していきたいと考えます。

◇児童センター運営事業

【活動の概要】

子育て支援と健全育成の児童館の根本的な役割に加え、子どもの貧困対策、虐待の早期発見や、大人が一体となって子どもを育てる地域づくりなど、「今」児童館が必要とされる役割においても積極的に取り組むことを心がけています。

2017年度は、「おいもほり」「団地夏祭り」「お楽しみ縁日」などを実施し、地域とのつながりを大事にした行事に積極的に関わりました。また、近隣小学校 2 校の青少年育成会、PTA、児童・民生委員、父親の会などの方々の協力のもと「センターまつり」「冬まつり」といった大々的な行事を実施することができました。

【活動の内容】

1. 利用者の参画を実現するシステムの構築

2016年度下半期から発足した乳幼児保護者によるママサークルが月に 1 回程度スポーツや工作のイベントを実施しました。

小学生は海賊キャンプなど行事を通じての参画を図りました。また、センターまつりや冬まつりでは、子ども実行委員会を立ち上げ、参画を促しました。

中高生は、2017年度より中高生委員会を立ち上げ、夏祭りへの出店、児童館キャンプやおばけやしきの企画・運営などを行いました。また、お楽しみ縁日やだがりや楽校などでは委員会メンバーが積極的に参加をする姿が見られました。中高生委員会に関しては、学校でも家でもないサードプレイスとして居場所利用をする中高生の参加が多く、委員会の活動を通じて自己肯定感を高め、自己成長につなげようとする場面が多く見られていました。

今後の課題としては、それぞれの活動においてメンバーの拡大や安定的な継続性が挙げられます。長期的な活動を見据えて、活動内容周知のための広報などを定期的におこなっていかねばと考えています。

また、中期ビジョンで記されている自主企画に対する定型の企画書については、作成はされているものの、さらなるブラッシュアップが必要であると考えます。

2. 業務マニュアルの策定による、新人育成・ボランティア受け入れ体制の確立

これまでのマニュアルを見直し、正規職員はもちろん臨時職員からも意見を集約し、誰もが同じ水準で仕事に取り組めるよう改訂作業を進めました。また、定期的の実習生やボランティア受け入れがあることから、他施設でのマニュアル等を参考にしながらボランティア受け入れのための手引書を作成しました。実習の際には担当職員を決め、実習スケジュールを作成するなど受け入れ体制の確立を図りました。

これまでは、職員の裁量で動くことが多く、施設としてのコンセプトにブレが生じる場面も見られていましたが、体制を整備することで安定した対応ができるようになりました。

3. 地域連携の継続・強化・発展

2017年度上半期は「おいもほり」「手打ちうどん」「団地夏祭り」「お楽しみ縁日」などを通じて、地域との関係性を強めていきました。2017年度下半期は「センターまつり」「おもちつき」「冬まつり」

を実施しました。上記概要にも記載したように様々な関係機関や地域との交流を図るとともに、関係性の構築に努めました。

さらに、商店会の紹介から FC 東京とつながり、イベントを実施することができるなど、アウトリーチを積極的に仕掛けることで、そこからさらに派生的につながりができていったことは非常に良かった点だと思います。

また、2017 年度からスタートしたひばりが丘中学校での放課後カフェに立ち上げから参加し、地域との交流を深めるとともに、居場所事業の支援を行いました。

4. 福祉的ニーズの掘り出しと関係機関連携の継続・強化・発展

これまで通り、困難を抱える利用者に対しては、子ども家庭支援センターなど関係機関との連携を取りながら支援をおこないました。子どもの貧困対策においては、近隣地域で実施されている「こども食堂」と情報共有を図り、見守りを続けています。

また、近隣小学校との連絡会、近隣中学校 2 校との学校運営連絡協議会、児童生徒虐待防止外部委員会を通じて情報の共有を図りました。さらに、福祉的ニーズがある利用者については、臨床心理士への相談事業に繋げるケースもありました。

10 月に児童センターから中学校へアプローチし、定期連絡会を開催できたことは大きな成果でした。

しかしながら、近隣高校との連携強化がまだまだ不十分と考えていますので、次年度以降の課題として取り組んでいきます。

5. 外部団体、他地域との交流

2015 年度より継続して参加している、中高生特化型児童館職員の研修会である首都圏中高生ネットワークに関わっていくことで、運営面の成熟度向上、職員のスキルアップを図りました。また、市内の児童館事業・研修に参画すると同時に、外部への事業・研修にも積極的に関わっていきました。2017 年度は 12 件の外部研修に参加しました。

また、中高生支援のスキルアップ・自施設運営のステップアップを目的とした、杉並区の「ゆう杉並」、調布市の「CAPS」との 3 施設交換研修を実施しました。

2 月にはチアダンスクラブが狛江市で行なわれた「児童館交歓フェア」に参加し、ステージ発表をするとともに他施設との交流を図りました。

他施設の職員、他地域の方々と接することで、自施設の課題発見や課題解決に加え、自施設の良さ・強みの再認識など、様々な刺激を得られたことはとても良い経験になったと思います。

6. 広報の強化

毎月発行しているおたよりを例年通り近隣小中学校 4 校に配布すると同時に、中高生向けイベントがある月は近隣 5 校の高校への配布をしています。また、ブログやツイッターといった電子媒体をこまめに更新し、タイムリーな情報を発信していくことを心がけました。

また、館内広報に関しては、まだまだ改善の余地があると考えます。児童センターの活動内容をわかりやすく利用者に周知してもらうためにも、写真などを使ってイベントの報告などを充実させていくことが課題として挙げられます。

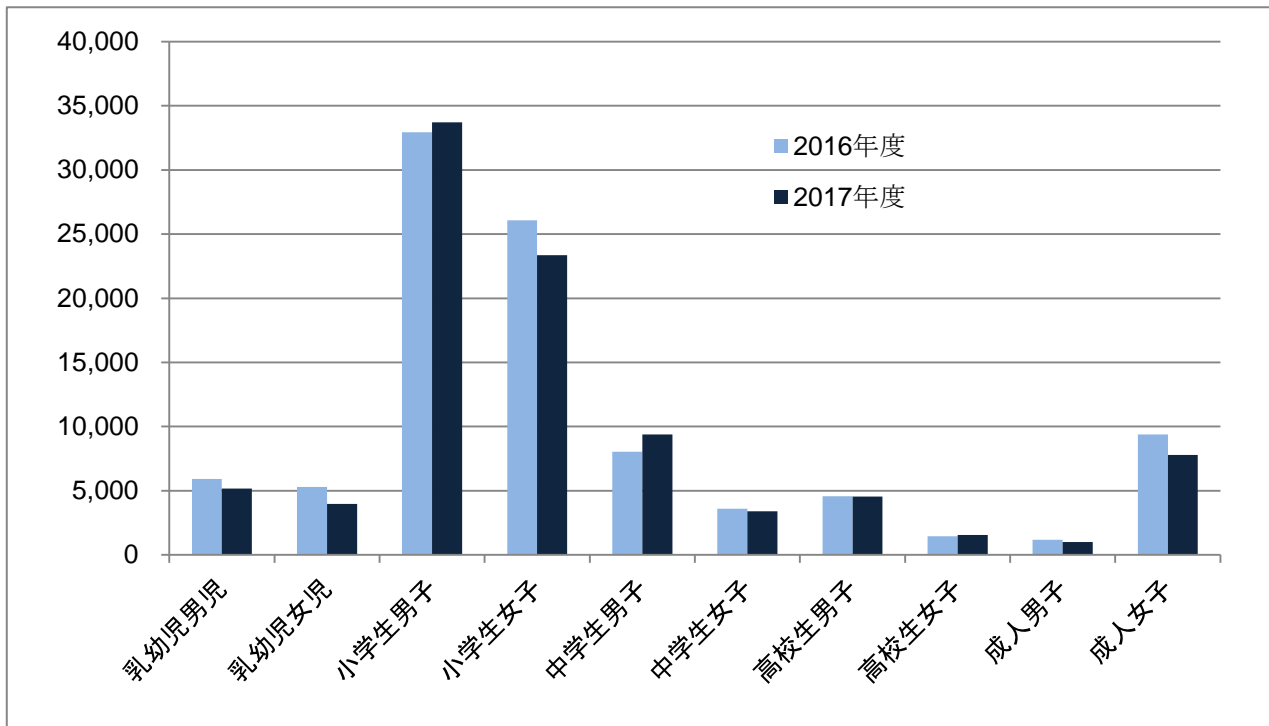
【利用状況】

<利用者状況（前年度対比）>

	年度		構成比	増減
	2016	2017		
乳幼児男児	5,917	5,172	5.5%	87.4%
乳幼児女児	5,301	3,969	4.2%	74.9%
小学生男子	32,925	33,697	35.9%	102.3%
小学生女子	26,071	23,364	24.9%	89.6%
中学生男子	8,049	9,379	10.0%	116.5%
中学生女子	3,609	3,410	3.6%	94.5%
高校生男子	4,575	4,555	4.9%	99.6%
高校生女子	1,453	1,562	1.7%	107.5%
成人男子	1,184	1,004	1.1%	84.8%
成人女子	9,396	7,790	8.3%	82.9%
合計	98,480	93,902	100.0%	95.4%

<学年別利用者数（前年度対比）>

	年度		増減
	2016	2017	
中1男子	2,006	3,166	157.8%
中1女子	1,183	1,391	117.6%
中2男子	3,298	2,404	72.9%
中2女子	1,168	1,228	105.1%
中3男子	2,736	3,809	139.2%
中3女子	1,258	791	62.9%
高1男子	1,224	2,099	171.5%
高1女子	359	844	235.1%
高2男子	1,615	1,059	65.6%
高2女子	509	279	54.8%
高3男子	1,751	1,397	79.8%
高3女子	573	439	76.6%
合計	17,680	18,906	106.9%



<利用者状況>

<登録者状況（前年度対比）>

内訳	年度		増減
	2016	2017	
乳幼児男児	727	722	99.3%
乳幼児女児	657	648	98.6%
小学生男子	694	804	115.9%
小学生女子	688	761	110.6%
中学生男子	484	578	119.4%
中学生女子	304	328	107.9%
高校生男子	541	501	92.6%
高校生女子	150	174	116.0%
合計	4,245	4,516	106.4%

◇組織運営

【活動の内容】

1. 運営体制の整備

施設運営事業では、運営会議（事務局長、統括ブロック長、各ブロック長で構成）を学童クラブ事業と児童センター事業で別々に開催し、それぞれの事業運営について協議する場としました。また、学童クラブ運営事業では施設長会議を開催し、施設間の情報共有と各施設の課題解決に向けた協議を行いました。運営会議の内容は三役会（代表理事、統括ブロック長、事務局長で構成）で確認し、理事会で協議すべき事項があれば理事会の協議事項としました。また、マネジメント研修を開催し、マネージャー職の役割や課題を話し合いました。

子ども支え合い事業のうち、自主事業である自然塾、だかしや楽校、いわき市四倉・大浦児童クラブ交流・支援事業は、理事と職員で構成される実行委員会形式で運営しました。2017年度は職員が主体となってスケジュール管理や運営を行いました。運営していく上でいろいろ課題がありましたが、振り返りを行うことで、次年度の運営に反映させていきます。

組織運営は事務局と理事会が共同で進めていますが、個人の力量に負うところが多く、期限管理が甘くなる、周囲の巻き込みが不十分等、今年度も思うように作業が進みませんでした。

2. 職場環境の改善

職員の自己実現と職務の達成度を明確にすること、職員が自らを高めるために取り組むことを支援すること、及び今後中核となる人材を育成するために、当団体の人材育成に関する指針と職務規程の策定を進めています。また、一人一人が目標を持ち、その実現に向けて行動するために「目標共有シート」を用いた自己実現のスキームを作成しています。2018年度の運用開始に向け準備しています。

コンプライアンスとその違反行為、情報管理上の注意事項、ハラスメント等、モラルある行動と組織内のコミュニケーション（報連相）推進のために、コンプライアンス研修を12月に開催しました。

離職者は、2016年度より減少しましたが、2017年度も出てしまいました。「やりがい」と「働きやすさ」を大切に、長く働き続ける環境整備に、団体として取り組んでいきたいと考えています。

3. 財政基盤の強化

新たに作成したリーフレットへの入会案内の挟み込みやアミーゴ通信での入会案内をツールとし、だかしや楽校等のイベントや関係者の人脈を活かした働き掛けに取り組みました。しかし、会員になることによるメリットの明確化ができておらず、会員数は微増でした（会員数：2017年3月31日：80名、2018年3月31日：91名）。

ボランティアについては、自然塾での高校生ボランティア、まただかしや楽校での出店等でのボランティアを募集し、一緒に活動しました。

自主事業財源の確保のため助成金の申請を行いました。2件申請しましたが採択されたのが1件で、約15万円の助成金を得ることが出来ました。

学童クラブ運営事業において、以前から実施している自主事業を引き続き実施しました。その中で、必要性の高い方に使っていただけるように利用者に理解してもらう宣伝を引き続き行いました。

当団体の収入の97%は西東京市からの委託金に頼っている状況です。施設運営事業が中心ですので致

し方ないところもありますが、助成金の獲得や、活動をご理解いただくことによる寄付や会員増加など、収入を少しでも増やして活動を充実させる方策を皆で考えていく必要があると考えています。

4. 広報活動の強化

ホームページのリニューアルを行い、5月に新デザインのホームページをアップしました。また、Facebookの管理・運用と併せて、複数の理事・事務局員で更新をおこなう体制をつくり、できるだけ迅速な情報発信に努めました。

アミーゴ通信は3号を発行し、市の施設に設置して活動状況を市民に紹介しました。

2017年7月夏号 会員総会の報告、ホームページリニューアル、年間活動スケジュール紹介

2017年11月号 特集：子ども支え合い事業（アミーゴ自然塾、だがしや楽校withいわき交流PJ）

2018年2月号 センターまつり、特集：アミーゴの学童クラブの魅力

1月20日に開催されたNPO市民フェスティバルでは、田無アスタの2階センターコートで20分間のプレゼンテーションを行い、多くの聴衆に活動をアピールしました。活動内容の紹介のためのポスター展示はだがしや楽校、学童こどもまつり、NPO市民フェスティバルで行い、各施設の様子や子ども支え合い事業の活動を写真で紹介しました。

前項（財政基盤の強化）と共通しますが、地域の方々に活動を理解していただき、支援していただくことがアミーゴの一番の基盤強化に繋がります。各施設事業や子ども支え合い事業を通じて、また広報活動も併せながら、アミーゴを広く周知していきたいと考えています。

5. 行政との協働関係の構築

行政や関連団体主催行事へ積極的に参加し、当団体のプレゼンスを強化しました（子ども支え合い事業の項参照）。施設運営事業に関しては、担当課と課題に応じて解決に向けた話し合いを行いました。

■助成団体一覧

認定特定非営利活動法人 日本 NPO センター

公益財団法人 東京都農林水産振興財団

■協力団体一覧

西東京市学童クラブ連絡協議会

社会福祉法人 西東京市社会福祉協議会

特定非営利活動法人 花咲き村

西東京市市民協働推進センター「ゆめこらぼ」

子どもげきじょう西東京

■執行部一覧（2018年3月31日現在）

- 代表理事：永井昌史
- 理事：安藤耕司、加藤 泰、田中 誠、照沼育美、星 ゆかり、湊谷智孝
- 監事：中曽根 聡、吉田 民
- 評議員：有賀達郎、伊藤由加里、加々見辰也、後藤紀行、古林美香、坂口和隆、嶋田文子、園田安男、高橋ヨシエ、田中紀子、塚本将仁、豊永ひとみ、西原みどり、古谷健太、松本 毅、真鍋五十鈴、森分エリカ、吉田聡、吉田朋子

■職員体制（2018年3月31日現在）

- 事務局
 - 事務局長：小松真弓
 - 事務局員：久島潤子

- 統括ブロック長：佐藤文俊
- 学童クラブ運営
 - 田無ブロック：
 - ブロック長 高橋明子
 - 北原学童クラブ 川杉祐太（施設長）、宮崎 翠、鹿野理子
 - 向台学童クラブ 高橋明子（施設長兼務）、片岡美慧、東出 愛
 - 向台第二学童クラブ 草苺 龍（施設長）、松田はるか、川上里佳子、天野正美
 - ひばりが丘ブロック：
 - ブロック長 村中生恵
 - 谷戸学童クラブ 大和美恵子（施設長）、岡庭亮太、雨宮可奈
 - ひばりが丘第一学童クラブ 鈴木豊子（施設長）、中西結香、元藤貴大、江原ひろみ、花津谷翔
 - ひばりが丘第二学童クラブ 村中生恵（施設長兼務）、林 秀和、大村聡子、小林裕子

- 児童センター運営（児童センターブロック）
 - ブロック長 佐藤文俊（統括ブロック長兼務）
 - ひばりが丘児童センター 佐藤文俊（センター長兼務）、田島和也（副センター長）、久保 竜、鈴木春菜、武田憲治、渡邊ちひろ

■議案 2 2018 年度 事業計画

今般、核家族化に加え、共働きと長時間労働の結果、地域社会における人間関係構築の機会が失われ、子育て世代同士のつながりが難しくなり、子どもにとってもその成長に必要な様々な人や地域との関わりが減少してきています。子どもの生命と安全のために、大人が協力し合って子どもを見守り支えていく体制を築いていくことが必要です。

子どもの数は全国的にみれば減少傾向ですが、市内では地域によってばらつきが大きいものの、大規模集合住宅の新築等により全体として子どもの数は増加しています。2018 年度の西東京市の学童クラブの入所者数は昨年続き 2,000 名を超えています。一方、西東京市では 2015 年度から子ども・子育て支援法に基づいた施策が実行に移され、西東京市子育て・子育てワイワイプラン（平成 27 年度～平成 36 年度の 10 か年）の 5 か年計画も進んでいます。子どもの居場所である児童館は、計画に基づく再編によって数が減少する見込みです。

このような状況を踏まえながら、私たちは「**地域に暮らす全ての子どもが持つ権利を保障し、安全・安心に暮らせる社会**」を目指し、引き続きアミーゴの 5 つの活動理念の実現に向け、2018 年度の事業活動を行います。

アミーゴの 5 つの活動理念

- 1) 子どもにとって安心安全な社会をつくる。
- 2) 子どもを含むさまざまな世代の参画をすすめ、子どもを中心においた支えあいの地域をつくる。
- 3) 子育ての責任を安易に家庭に押し付けず、課題を抱えた家庭が地域とつながる家庭支援を行う。
- 4) 地域の構成員として子どもを明確に位置づけ、社会的自立に向けた成長を支援する。
- 5) 子どもを社会で育てるための条件整備者としての行政の責務を明確にし、積極的に協働型の地域づくりに関わる。

また、2018 年度は第 3 期中期ビジョンの最終年度（3 年目）です。引き続き、第 3 期中期ビジョンで掲げた次の二つの柱に取り組みます。

■学童クラブと児童センターの運営、西東京市内でのネットワーク構築と様々な協働、**子どもを中心とした支えあいの地域づくり、まちづくりの活動**をさらに推し進めます（外部環境）。

■高い意識と意欲を持って職員が働ける職場環境作りを目指して、**組織基盤強化**に継続して積極的に取り組みます（内部環境）。

私たちは、多くの方々との出会いと支え合いによって成長してきました。感謝の気持ちを忘れずに、今後も一歩一歩着実に、活動理念の実現に向け取り組んでいきます。また、私たちは、設立当時から大切にしてきた 3 つのキーワード、「**つながる**」「**ささえあう**」「**ともにいきる**」を、行動の指針として活動していきたいと考えています。

◇子どもを中心とした支え合いの地域づくり、まちづくり事業

【活動の内容】

1. だがしや楽校

アミーゴの「だがしや楽校」が持つ、団体にとっての3つの目的を改めて挙げておきます。

- 1) アミーゴの活動・理念の対外的なPR
- 2) 施設・立場を超えた団体内部の横断的な連携
- 3) 他団体との協力によるつながりの構築

これらの目的の達成に向けて、今後もだがしや楽校を続けていきたいと考えています。運営に際しては、協力いただける地域の方々や学童クラブ保護者、他団体、会員・評議員などの方々への連絡をしっかりとこなっており、ともに「だがしや楽校」を作り上げていく形を取ります。

また、他地域（ひばりが丘方面等）における「だがしや楽校」同様の事業実施についても、引き続き検討していきます。

2. アミーゴ自然塾

アミーゴ自然塾は、自然の中での生活を通して、子どもの自主性・自立を育むこと、学童クラブを卒業した子ども達が、地域に戻ってからのつながりを地道に継続することで、世代間の交流・関係性の構築が自然に循環していくような、子ども達にとって豊かな地域環境を目指すことを目的としています。

2017年度には、30名を超える参加がありましたが、これまで会場として利用していた「古民家滝本」の管理体制が変更になることから、自然塾の実施形態も改めて検討の必要が生じました。2018年度の早い時期に検討会議を立ち上げ、実施形態について議論を始めます。

3. 高学年合宿

学童クラブ運営事業に直結する自主事業としての実績を踏まえ、学童生活の集大成とする位置付けのもと、継続して在籍高学年児の合宿を行います。

4. いわき市児童クラブと交流

東日本大震災の復興支援を契機として始めたいわき市児童クラブとの交流事業も、8年目を迎えます。これまで培った互いの関係を今後も持続・発展していけるよう、事業に取り組みます。

5. 支え合い事業担い手の創出

地域の子育て団体・グループとのコラボレーションを積極的に実施し、相互協力の機会を増やします。また、アミーゴ主催行事への会員の運営参加の仕組みづくりに取り組みます。

6. 西東京市を中心とした地域NPOや関連団体との協働

市内を中心に活動している子育て団体との連携を深め、ひばりが丘児童センターを会場とした乳幼児広場事業などの子育て支援活動を進めます。また、西東京市と共催事業として行われている「第8回こそだてフェスタ@西東京」に参画し、地域子育て支援団体とのネットワークを構築します。また、西東京市学童クラブ連絡協議会が開催する「学童こどもまつり」、西東京市市民協働推進センター「ゆめこ

らぼ」や西東京市社会福祉協議会、子どもげきじょう西東京が行うイベントなどに積極的に参加します。また、新たな地域のネットワーク作りを目的として立ち上がった西東京市西部地区地域協力ネットワーク協議会（にしにし.net）に参画し、様々な団体との関係づくりに努めます。

◇学童クラブ運営事業

子どもアミーゴ西東京が掲げる学童保育のあり方について、職員が共通の理解と認識を持ち、それぞれの環境に応じた最大限の努力をすること、その努力に対して適正な評価がなされ、結果として意欲を持って仕事にあたる職場になることが、第3期中期ビジョンに描かれた2018年度末の姿です。当団体は、地域の保護者が西東京市の学童保育のあり方を考えて立ち上げ、専門職である指導員と手を携えて歩んできました。その団体が行う学童クラブ事業として、国が定める放課後児童クラブ運営指針、それに先駆けて策定された団体の学童クラブ保育指針が示す学童保育作りへの取り組みを、2018年度も引き続き継続していきます。

【活動の内容】

1. 学童クラブ運営の方向性の構築

下記に記す「実践検討研修」や、それぞれの施設やブロックで持たれる自己研さんの機会、外部や内部で開催される研修への参加などを通して、国が定める放課後児童クラブ運営指針、団体の保育指針が示す学童保育を実現していくアミーゴの学童クラブ運営の方向性は、概ね共通認識されてきたと考えます。

2018年度は、新しく入職する職員も非常に多く、また、団体の体制も大きく変わる年度であることから、これまでの取り組みをより精度高く継続して参ります。

向台、向台第二学童クラブは児童数80名を超え、超過率166%の大規模学童となりました。また、ひばりが丘第一学童クラブは2階、3階に分割された二つの育成室で、児童数120名を超える市内でも例のない学童クラブ運営を引き続き行います。少しでも円滑な運営を図るためには、欠員のない状態での運営が不可欠です。採用した職員の定着を図ることに重きを置くとともに、補充のために採用活動も、さらに戦略的に行って参ります。

2. 保育内容の充実・向上に向けた人材育成

保育実践力の向上と、その実践を言葉にして伝える発信力の向上、この二つを人材育成の柱においた第3期中期ビジョンの最終年として、これまでの振り返りを踏まえ、取り組んでいきます。

日々の保育実践を記録し、その記録をもとにした発表、それに対して指導員間で検討を行う「実践記録検討研修」は、その中核的な取り組みと位置付けられます。日々の実践と記録、振り返り、発表と検討、日々の実践への活用、というサイクルの確立により、保育内容の充実と向上に向けた人材育成を図ります。また、全国学童保育研究集会、三多摩学童フォーラム、全国学童保育指導員学校などの外部研修へ業務として参加し、指導員としてより広く、深い知見を得られる機会として活用します。

既に運用を始めている、施設長を対象とした目標共有シートを指導員個人に対しても活用し、それぞれの目標とその進捗、成果が明確化され、上職者、運営側と共有されるよう取り組んでいきます。

3. 保護者・地域との連携強化

日々の子どものたちの学童クラブでの様子を家庭に伝えることは、国の放課後児童クラブ運営指針、団体の学童クラブ保育指針においても、学童保育の中の大きな柱として位置付けられています。通信（おたより）、連絡帳、個人面談、保護者会などを通して、日々の学童クラブ全体の様子、個々の子どもの

様子などを保護者の皆様に伝えていきます。それにより、学童クラブは単なるサービスとしての預け場所ではなく、指導員と保護者が一体となって作る、子どもの育ち合いの場所であることを伝えていきます。2018年2月には、児童・民生委員の方々と学童クラブの懇談会が実施されました。今後、さらに児童・民生委員の方々との連携を強化していきます。

4. 行政その他の機関との協働関係の構築

2017年度より、育成室で展開される児童の遊びと安全配慮に関して、行政との協議を行ってきました。学童保育における遊びの重要性と、必要な安全配慮、安全管理について、日々の事業を精査するとともに、新しい視点も加えながら丁寧な説明を行い、行政との共通理解を構築する努力を続けていきます。公共事業の委託における目的の一つに「民間活力の導入」が挙げられます。団体の活動、実践がその「活力」となり、協働の成果としてしっかりと認識されるよう、日々の業務を細部にわたり正確に進め、民間事業者ならではの実践とその成果を伝える努力と工夫を続けていきます。

また、団体の出身母体ともいえる西東京市学童クラブ連絡協議会との連携強化は、重要なであると考えます。西東京市の学童クラブに通う全ての子ども達にとっての利益を見据えた、より良い関係作りを図っていきます。

同様に、所管の各児童館施設、西東京市指導員ユニオンとの関係作りも、引き続き図っていきます。

5. 自主事業の見直し

創立当初より継続している延長保育や外注弁当の事業です。現状、緊急対応を目的とする事業であることを、保護者の皆様にお伝えしています。2018年度もこの事業形態を継続します。

◇児童センター運営事業

第3期中期ビジョンの最終年にあたる2018年度はこれまでの達成状況を踏まえ、ゴールに向けた6つの取り組みを続けていきます。利用する子どもたちや保護者が「自分たちの地域の、自分たちの施設」と考えて、積極的に運営に参加する施設となることを目指します。また、ニーズの多様化に伴い、「児童ソーシャルワーカー」として多角的なスキル強化を図り、それらの実践を的確に外部に発信することで、より広域での連携も可能な施設となるよう取り組んでいきます。

【活動の内容】

1. 利用者の参画を実現するシステムの構築

乳幼児保護者では「はッピーママ」の運営・実施、小学生年代は「センターまつり」や「冬まつり」などの行事における実行委員会の参加、中高生年代は2017年度より発足した「中高生委員会」によるセンターの運営への参画など、各年代における利用者の参画を促すシステムが構築できつつあります。2018年度はそれぞれの活動において、メンバーの拡大と人が入れ替わっても持続可能な安定性に加え、広報に力を入れ、参画の入り口を広げる取り組みをしていきます。

2. 業務マニュアルの策定による、新人育成・ボランティア受け入れ体制の確立

2017年度は既存の業務マニュアルを改訂し、より業務の平準化を図れるように取り組みました。今後は、新人育成においてマニュアルを有効活用するためにも達成度スケジュールを作成し、育成における「見える化」を進めていきます。

また、チアダンスやクッキングといったクラブ活動を通じてジュニアリーダーの育成にも取り組んでいきます。

3. 地域連携の継続・強化・発展

地域との連携については、比較的広範囲かつ良好な連携関係が成立していますが、「児童センター」としての関係性に加え「子どもアミーゴの児童センター」としての浸透を、引き続き図っていきます。

4. 福祉的ニーズの掘り出しと関係機関連携の継続・強化・発展

2017年度は中学校との連携がより密に図れたことから、2018年度も継続して関係性の強化に努めます。一方で、高校との連携強化に対して一定の成果が挙げられていない現状がありますので、中高生イベントを通じてのアプローチを積極的に行っていきます。

また、乳幼児保護者からの福祉的ニーズも多いため、既存の「なんでもトークルーム」による心理士相談事業に加え、保健所などと連携して福祉的ニーズの裾野を広げていく取り組みを進めていきます。

5. 外部団体、他地域との交流

都内近郊の中高生特化型施設間のネットワーク「首都圏中高生ネットワーク」への参加を継続し、職員のスキルアップ、運営の強化を図ります。さらに、中高生特化の先駆的な施設である杉並区の「ゆう杉並」、調布市の「CAPS」との職員交換研修を継続して行ない、自施設の運営に活かせる学びの場といたします。

また地理上、児童センターが市境にあることから、隣接する東久留米市の「子どもセンターひばり」と連携し、利用者の情報共有や協働イベントを実施するなど、関係強化を図っていきます。

6. 広報の強化

紙でのおたより、ブログやツイッターによる電子媒体による広報活動は継続して行っています。さらに、電子媒体をより有効的に活用するためにも、ガイドラインの作成を早急に整備していきます。

2019年度からは、現在学童クラブの育成室となっているダンススタジオの利用が再開されます。ダンススタジオのリニューアルオープンを前面に押し出す広報戦略を練り、SNSなども活用して、高校生年代へ積極的にアピールしていきます。

◇組織運営

【活動の内容】

1. 運営体制の整備

2018年度は、第3期中期ビジョンの最終年として、職員ひとりひとりが「やりがい」と「働きやすさ」を持って仕事ができる風土、そして各事業が着実に前進できる仕組みを構築する年として体制作りに取り組みます。

施設運営事業では、運営会議を学童クラブ事業と児童センター事業合同で開催し、子ども支え合い事業も含めた事業全体の運営を協議する場とします。また、学童クラブ事業では、各施設の課題解決を検討する場として引き続き施設長会議を設定します。

子ども支え合い事業では、自主事業である自然塾、だがしや楽校、いわき市四倉・大浦児童クラブ交流・支援事業は引き続き実行委員会でスケジュールや企画運営を管理します。

組織運営についても、可能な限り運営会議が決定できる部分を増やし、職員が運営の主体となる経験を得られるような運営を模索します。

2. 職場環境の改善

すべての職員がやりがいを持って安心して働き続けられる環境を目指します。職員の自己実現と職務の達成度を明確にすること、職員が自らを高めるために取り組むことを相互に支援すること、及び今後中核となる人材を育成するために、団体の人材育成に関する指針と、職務を明確にするための職務規程を策定します。また、働く上で夢や目標を持ちそれに向かって努力していくことは、アミーゴにとっても個人にとってもとても大切なことです。期首に目標を設定し期末にそれを振り返ることで、自分が何に向かってどう取り組むか、上職者がどんな支援を行うかを具体化・可視化します。具体的には「目標共有シート」を用いて期首及び期末に確認作業を行うシステムを構築し、運用を開始します。

また、安全衛生の取り組みとして、職場での安全衛生に関する課題の抽出や解決に向けた協議を行います。また、各施設で起きてしまった事故やヒヤットした出来事などの課題を施設間で共有し、解決方策を検討できるように、アクシデント・インシデントの共有システムを構築します。

コンプライアンスや情報管理に関して、モラルある行動と組織内のコミュニケーション（報連相）推進のためのコンプライアンス研修を行います。

3. 財政基盤の強化

会員増加の取り組みとして、イベントでのパンフレット配布、ホームページやアミーゴ通信での呼びかけを行います。また、受託事業以外の財源確保を目指して助成金の申請を行います。収益に占める委託事業の割合を少しでも減らしていけるように、新規事業の開拓など模索します。

4. 広報活動の強化

アミーゴの活動・理念についてより広く知っていただき、施設利用者をはじめ行政や子育て支援に関わる方々とのつながりを強めるために、広報活動を推し進めます。また、現場の生の声を伝えることで、アミーゴの活動の魅力を広く発信できる体制づくりを行います。

ホームページを活用し、情報発信を行います。今まで情報提供がなかった各事業の紹介や支援や協力

についてのサイトを新設する予定です。ホームページの更新やSNS等を活用し、タイムリーな情報を提供するための運用管理体制を構築します。

アミーゴ通信は定期的に発行し、活動状況を会員や市民に紹介します。また、「会費を払ってよかった」と思っただけのよう、アミーゴ通信の充実やタイムリーな情報発信の体制を検討します。

市内で開催されるイベントで展示や発表を行い、市民への認知度向上に繋がります。

5. 行政との協働関係の構築

事業受託契約の形態を取りながらもNPOとしての自立性と独自性を保つために、市内の各セクターとの連携を強化すると共に、行政や関連団体主催行事へ積極的に参加・貢献することで団体の存在感を高める活動を行います。

担当課と定期的に懇談し、社会的課題の共有と解決に向けたアクションの働きかけを進めます。また、西東京市が策定を進めている子ども条例（仮称）に伴う、様々な児童施策の変化なども注視していきます。市内児童館の再編成も進むことが予想される中、行政との相互の信頼関係に基づく、適正な協働関係の構築に努めていきます。

6. 第4期中期ビジョンの策定

2018年度は第3期中期ビジョンの3年目（最終年）になります。第3期中期ビジョンで達成されたこと、出来なかったことの振り返りを行うと共に、次の3年間に向けて第4期中期ビジョンを策定します。

■2018年度職員体制（2018年4月現在）

○ 事務局

事務局長：佐藤文俊

事務局員：久島潤子

○ 学童クラブ運営

統括ブロック長：高橋明子

田無ブロック：

ブロック長 高橋明子

北原学童クラブ 川杉祐太（施設長）、宮崎 翠、鹿野理子

向台学童クラブ 高橋明子（施設長兼務）、松田はるか、佐藤 響、東出 愛

向台第二学童クラブ 草苺 龍（施設長）、川上里佳子、天野正美

ひばりが丘ブロック：

ブロック長 村中生恵

谷戸学童クラブ 大和美恵子（施設長）、岡庭亮太、小山友里枝

ひばりが丘第一学童クラブ 鈴木豊子（施設長）、中西結香、元藤貴大、江原ひろみ、
花津谷翔、清水江里子

ひばりが丘第二学童クラブ 村中生恵（施設長兼務）、林 秀和、大村聡子

○ 児童センター運営

ひばりが丘児童センター 佐藤文俊（センター長兼務）、田島和也（副センター長）、
久保 竜、鈴木春菜、武田憲治、渡邊ちひろ、立川 潤

■議案 4 代表理事・理事・監事・評議員の選任

2018年度の代表理事、理事、監事、及び評議員を以下の通り提案します。

□ 代表理事

(新任候補)

田中 誠 (元西東京市学童クラブ連絡協議会会長)

□ 理事

(新任候補)

松本 毅 (元西東京市学童クラブ連絡協議会会長)

(再任候補)

安藤耕司 (遊び創造集団たのしいのひ、練馬区職員)

加藤 泰 (元西東京市学童クラブ連絡協議会会長)

照沼育美 (元西東京市学童クラブ連絡協議会会長)

星ゆかり (元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長、保育士)

湊谷智孝 (元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長)

□ 監事

(再任候補)

中曾根聡 (元西東京市学童クラブ連絡協議会会長)

吉田 民 (公認会計士)

□ 評議員

(新任候補)

妹尾浩也 (三多摩学童保育連絡協議会会長)

田崎吉則 (西東京市パパクラブ代表)

永井昌史 (元特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京代表理事)

森本 薫 (元西東京市学童クラブ連絡協議会会長)

(再任候補)

伊藤由加里 (元西東京市学童クラブ連絡協議会事務局長)

加々見辰也 (元西東京市学童クラブ連絡協議会副会長)

坂口和隆 (認定特定非営利活動法人日本 NPO センター)

高橋ヨシエ (特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京学童運営会議スーパーバイザー)

塚本将仁 (有限会社プロシステム取締役)

古谷健太 (元特定非営利活動法人子どもアミーゴ西東京副代表理事)

吉田 聡 (元西東京市学童クラブ連絡協議会会長)

<非改選>

□ 評議員

古林美香（育成会ひろがり会長）

嶋田文子（保護司）

園田安男（特定非営利活動法人花咲き村代表）

田中紀子（特定非営利活動法人西東京子育てコム代表理事）

豊永ひとみ（株式会社エクラアニマル代表取締役）

西原みどり（西東京市主任児童委員）

真鍋五十鈴（西東京市主任児童委員）

森分エリカ（元西東京市学童クラブ連絡協議会会長）

吉田朋子（特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブちろりん村事務局長）

■議案 5 定款の変更

平成 28 年 6 月 1 日に「特定非営利活動促進法の一部を改正する法律」が成立し、同月 7 日に公布されました。改正に伴い、NPO 法人は貸借対照表を作成後に遅滞なく自ら公告するものとされ、この施行日は平成 30 年 10 月 1 日となりました。つきましては、定款 70 条を次のように変更することを提案します（アンダーライン部分を追記）。

	新	旧
変更の内容	<p>特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京 定款</p> <p>(中略)</p> <p>第8章 定款の変更、解散および合併等</p> <p>(中略)</p> <p>[公告の方法]</p> <p>第70条 この法人の公示は、事務所の前の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。<u>ただし、特定非営利活動促進法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公示については、この法人のホームページに掲載して行う。</u></p> <p>(以下略)</p>	<p>特定非営利活動法人 子どもアミーゴ西東京 定款</p> <p>(中略)</p> <p>第8章 定款の変更、解散および合併等</p> <p>(中略)</p> <p>[公告の方法]</p> <p>第70条 この法人の公示は、事務所の前の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。</p> <p>(以下略)</p>
変更の理由	特定非営利活動促進法の改正に伴う貸借対照表の公告方法の追記	